



新型コロナウイルス感染症に関するお知らせ



日常生活の行動を変え、「新しい生活様式」を実践しましょう。

感染防止の3つの基本

① 人との距離を取る

飛沫感染を防止するため、できるだけ2m（最低1m）空けましょう

② マスクを着用

外出時や会話するときは、マスクを着用しましょう

③ 手洗いの徹底

帰宅時、食事前など石けんで丁寧に洗いましょう

- 3つの「密」を避ける 換気の悪い**密閉**空間、多数が集まる**密集**場所、間近で会話や発声をする**密接**場面
- 体温測定と健康チェック、発熱や風邪症状がある場合は自宅で療養
- 県外との往来は、移動先（地域）の感染状況を確認し、マスクの着用などの感染防止対策を徹底して慎重に行動
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモ • 接触確認アプリの活用（詳しくは15ページへ）

感染が疑われる方 ▶ 帰国者・接触者相談センター	・ 息苦しさや強いだるさ、高熱等の強い症状のいずれかがある ・ 風邪症状が続いている（4日以上続く場合は必ず） ・ 高齢者や基礎疾患等がある方、妊娠中の方で発熱やせきなど比較的軽い風邪症状がある ☎ 0120(567)747 24時間（毎日）
県の対策や予防法など ▶ 一般相談（コールセンター）	☎ 0120(567)177 月～金曜日 午前8時30分～午後9時 土日 祝日 午前8時30分～午後5時15分

支援・相談情報一覧（詳細はお問い合わせいただくか、ホームページ等でご確認ください。）

	問い合わせ内容	概要	問い合わせ先
住民向け	生活費の貸し付け	他の貸付制度が利用できない低所得者世帯、障がい者世帯または高齢者世帯に対し、資金の貸し付けを行います。	お住まいの市町村社会福祉協議会、県社会福祉協議会または県庁社会福祉課 ☎ 024(521)7322
	県税の猶予	新型コロナウイルス感染症の影響により納税が困難な場合、申請により徴収猶予が適用されることがあります。	最寄りの県地方振興局県税部 または県庁税務課 ☎ 024(521)7069
	消費生活相談	新型コロナウイルス感染症に関して「行政からの委託で消毒に行く」「コロナ対策用品を購入したら違う商品が届いた」などの相談や情報提供を受け付けています。	県消費生活センター 相談専用ダイヤル ☎ 024(521)0999 受付時間 月～金曜日 午前9時～午後6時30分 第4日曜日 午前9時～午後4時30分
	こころの健康相談	新型コロナウイルス感染症の感染拡大やそれに伴う生活や仕事への影響に関して、不安やストレスを感じている方の相談に対応します。また、各保健福祉事務所では、医師等の専門家による心の健康相談会を開催しています。	こころの電話（県精神保健福祉センター） ☎ 024(535)5560 または保健福祉事務所障がい者支援チーム 県北保健福祉事務所 ☎ 024(534)4300 県中保健福祉事務所 ☎ 0248(75)7811 県南保健福祉事務所 ☎ 0248(22)5649 会津保健福祉事務所 ☎ 0242(29)5275 南会津保健福祉事務所 ☎ 0241(63)0305 相双保健福祉事務所 ☎ 0244(26)1132
	中小企業労働相談所	解雇、賃金、労働時間等の労働に関する問題に加え、新型コロナウイルス感染症に伴う休業補償、労使間のトラブルなど労使双方の相談に対応します。	中小企業労働相談所 ☎ 0120(610)145 受付時間 月～金曜日 午前9時～午後4時
事業者向け	新型コロナウイルス対策特別資金（実質無利子型）	【対象者】売上が5%以上減少した中小企業者・個人事業主 【融資限度額】4,000万円 【融資期間】10年以内(据置期間5年以内) 令和2年12月31日受付分まで実施	県内の銀行、信用金庫、信用組合、 商工組合中央金庫 または県庁経営金融課 ☎ 024(521)7288
	新型コロナウイルス対策特別資金（有利子型）	【要件】直近1カ月の売上高等が前年同月比15%以上減少しており、その後2カ月を含む3カ月間の売上高等が前年同期比15%以上の減少が見込まれること(危機関連保証) 直近1カ月の売上高等が前年同月比20%以上減少しており、その後2カ月を含む3カ月間の売上高等が前年同期比20%以上の減少が見込まれること(セーフティネット保証4号) 【融資限度額】8,000万円 【融資期間】10年以内(据置期間1年以内) 令和3年3月31日融資実行分まで実施	
	労働関係電話相談	雇用調整助成金等の各種助成金、有給休暇および休業手当等に関する相談、新型コロナウイルス感染症等における新たな助成金制度に関する相談などに対応します。	

最新情報は
こちらから

福島県
ホームページ



新型コロナウイルス感染症
関連情報ポータル



福島県公式 Twitter
@Fukushima_Pref



身近にある感染リスクへの「危機意識」を持って感染防止対策を行ってください。
感染リスクをゼロにすることはできません。陽性となった方やその関係者、医療従事者などに対する差別や偏見は絶対になさらないようお願いいたします。